

コース名		科目名			対象学年			
良医の礎		医学概論 〈漢方シリーズ〉			1			
開講学期		科目責任者		副責任者				
1 学期		中村 文洋						
目的								
<p>医師としてのプロフェッショナリズム及び生涯にわたって共に学ぶ姿勢を示すことができる（コンピテンシーⅠ）。 ワークショップを通してコミュニケーション能力及び多職種連携能力の概要について説明できる（コンピテンシーⅡ）。 社会における医療の役割の概要について説明できる（コンピテンシーⅤ）。</p>								
授業到達目標								
<p>各授業目標は、医学教育モデル・コア・カリキュラム（令和4年度改訂版）に準じている。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 医師のプロフェッショナリズムの概要を理解できる（PR）。⇨授業第1回目 2. 医学では生涯にわたって共に学んでいくことを理解できる（LL）。⇨授業第1,6回目 3. 人の生命に深く関わる医師に相応しい教養を身につける（PR-03-01-01）。⇨授業第3回目 4. 医師のプロフェッショナリズムに品格・礼儀が重要であることが理解できる（PR-02-03）。⇨授業第2,10回目 5. 医師のプロフェッショナリズムとして思いやりや他者理解・自己理解が重要であることが理解できる（PR-02-02）。⇨授業第4回目 6. 状況に応じて聴衆にわかりやすく研究内容をプレゼンテーションできる（RE-04-01-02）。⇨授業第5回目 7. 社会の構造や変化から捉える医療の概要を理解できる（S0-04）。⇨授業第7回目 8. ソーシャルメディアの利用において、医療者として相応しい情報発信の在り方を理解し、実践できる。（IT-01-02-02）。⇨授業8回目 9. 自己学習や協同学習の場に適切なICT（eラーニング、モバイル技術等）を活用できる（IT-03-02-01）。⇨授業第9回目 10. 漢方医学の特徴について概要を理解している（CS-02-04-14）。⇨授業第11回目 								
各授業項目理解度ルーブリック評価								
秀（100点レベル）		優（80点レベル）		良（70点レベル）		可（60点レベル）		
		目的レベル				授業到達目標レベル		
⇨優レベルに加え、将来のビジョンも含め説明できる。		⇨各授業項目に関し、概要を説明できる。		⇨各授業項目に例も合わせ理解できる。		⇨各授業項目について理解できる。		
						⇨各授業項目の理解が曖昧である。		
授業計画								
回数	月日	曜日	時限	区分	担当者	所属	授業内容	コアカリ項目
1	4/15	月	1	講義	砂田芳秀	医学部	川崎医科大学の医学教育	PR, LL
2	4/25	木	1	講義	森谷	病理	医学生のもラル・川崎医大生のもラル	PR-02-03, PR-04
3	4/30	火	3	講義	砂田芳秀	医学部	明日の医学	PR-03-01-01
4~6	5/ 2	木	1~3	演習	中村文	生理2	ワークショップ（グループワーク）	PR-02-02, PR-03-01
7~9	5/ 7	火	4~6	演習	中村文	生理2	ワークショップ（発表会）	PR-03-01, RE-04-01-02
10	5/23	木	5	講義	森谷	病理	医師と生涯学習：専門医取得とその先の道のり	PR, LL
11	5/30	木	6	演習	松山	非常勤／学園外	尊厳ある社会を目指して一岡山県医師会の活動ー	PR-04, S0-04
12	6/ 3	月	6	演習	栗林	生化	生成AIの体験実習	PR-01-02-02, RE-01-01-01 IT-01-02-02
13	6/17	月	6	演習	栗林	生化	生成AIの賛否討論と自己学修への取り込み	PR-03-01-02, LL RE-04-01-02, IT-03-02-01 IT-03-02-02
14	7/ 2	火	3	講義	森谷	病理	医師のもラルとは？ 医師国家試験から振り返る	PR-02-03, PR-04
15	7/ 2	火	4	講義	中村文	生理2	漢方入門	CS-02-04-14
評価方法								
<p>[レポート]40%（座学に関するレポート（20%）、演習での課題レポート（20%）） [プレゼンテーション]40%（ワークショップでの発表（20%）、ワークショップ以外での発表（20%）） [出席状況（受講態度）]20%（全出席が原則） [評価方法]出席・受講態度評価、論文・レポート、プレゼンテーション評価 [備考]ワークショップでの発表評価は、グループで作成したスライド資料を中心に採点基準（ルーブリック）を用いて評価する。出席は全出席が評価される配点とする。詳細は講義の時に説明する。</p>								

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックについて
<p>1. レポートは、教員の指示に従って作成すること。レポートに生成 AI を使用する場合は、「川崎医科大学の生成 AI 取扱い指針」に従い、使用した生成 AI の種類、引用箇所、prompt 内容を提示すること。</p> <p>2. 生成 AI の内容には虚偽が含まれている可能性があるため、必ず自ら根拠や裏付けを確認すること。</p> <p>3. 課したレポートは、原則、コメントをつけて返却する。 レポート等は可能な限り、採点基準（ルーブリック評価）を付けて返却する。</p>
教科書
必要に応じて資料を配布する。
参考書
ISBN-9784260041256, 学生のための医療概論, 小橋元 [ほか] 執筆 ; 小橋元, 近藤克則, 黒田研二, 千代豪昭編集, 医学書院, 2020
準備学習（予習・復習等）
座学以外にグループワークや発表会などが設定されている科目であるので、準備学習を十分に行っていただきたい。時間の指定は特にないが、グループで行う準備学習は、グループ内で時間調整して行うこと。
講義についての注意事項
<ul style="list-style-type: none"> ・本科目は、座学及び演習を組み合わせたハイブリッド授業であるので、出席はもちろんのこと演習においても積極的に学習していただきたい。 ・第 11 回目は「漢方入門」があるが、本学での「漢方縦断（垂直）授業 10 回シリーズ」の第 1 回目の授業である。医学概論で早期に和漢学についても触れることを目的とする。
昨年度からの変更点・改善項目
<ul style="list-style-type: none"> ・本授業を座学及び演習のハイブリッド授業に変更した。それに伴い授業数を 24 コマから 15 コマに縮小しテーマを絞っている。 ・ルーブリックを用いて、学生が授業の理解度の自己評価を行うことが可能となった。
卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連について
<ul style="list-style-type: none"> ・本科目は、医師のプロフェッショナリズム、生涯教育、モラル、生成 AI、地域社会、倫理問題・法に等を通して医学を多角的に学修する。 ・学修後は、2 年次で学修する「医の原則Ⅱ」及び「臨床入門」につながり、さらには臨床実習へとつながり、最終的にコンピテンシ I・Ⅱ・Ⅴの達成を目指す。 ・授業到達目標欄に記載しているルーブリック秀レベルを到達できるように、新コアカリに記載されている PR-03-01-02「答えのない問いについて考え続ける。」を実践できるように努力していただきたい。
ナンバリング
HAIM111